
しゃれこうべ

ペペロンチーノ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
しゃれこつべ

【Nコード】
N7325X

【作者名】
ペペロンチーノ

【あらすじ】
一昨日俺は死んだ。四十九日まで後47日しかない。早く未練をやり遂げねーと閻魔に怒られる！！

自己満足MAX。基本ギャグのフラット小説です。

a t t e n t i o n !

【世界設定】

- ・ 天使や悪魔はいない。
- ・ 普通に浮遊霊や悪霊がいる。
- ・ 49日の間に未練をなくさなければならぬ。（未練があると閻魔にめっちゃ怒られる）

・ 輪廻について

最後の日に死神が迎えに来る。

↓ 未練があつたら現世に滞在し未練をやり遂げる。滞在期間を延長するとレポートを提出したり死神に説教されたり結構めんどくさい。サバると強制的に地獄に送られる。

↓ 未練がなかったら死神の面接を受け、それを元に閻魔が輪廻先を決める。（毎週日曜日は定休日。49日と被ると月曜日になるのは極秘情報）

・ 六道豆知識

トップに閻魔。その下にそれぞれ天道、人間道、修羅道、畜生道、餓鬼道、地獄道の班長がいる。

↓ 天道は一見極楽浄土に見えるがそうでもない。治安や景色はべらぼうにいいが死神しかり、他の道の管理しかり結構多忙。輪廻を望む者が後をたたない。（ちなみに天道の住人は輪廻先を選ぶ）

ついでに…。

（同時には出ないので流しちゃってok！）

【登場人物】

佐藤雪慈朗 #サトウユキジロウ
享年18、事故死、通称ジロー
フラットな性格。愛読雑誌は週刊少年ニャンプ。死後の生活をエン
ジョイしてる。

鬼丸国綱 #オニマルクニツナ
享年19、病死、通称ツナ
自称常識人のツッコミ担当。生前が重病人とは思えないほど活発。

数珠丸（HN） #ジュズマル
享年41、隕石に当たって死亡
エロスに対しては忠実。ゲーマー。ネトゲの神。

堂島アン #ドウジマアン
享年16、殺害された
復讐に燃えている。愛読雑誌は週刊少年ニャンプ。女の子らしい一
面もある。

松方たんぽぽ #マツカタタンポポ
悪霊、口裂け女。
本当は美人で優しいが過去のトラウマのためネガティブ。

あの遺影は気に入らない

ぽん、ぽん、ぽん、と規則正しい木魚の音と坊さんのお経が会場には響いていた。

「うつ、ジロー……。」

今、俺は声を殺してすすり泣く母さんの隣に座っている。母さんとは些細なことで喧嘩ばかりしてたけど泣かれると弱いんだ。ほら、俺は紳士だからね。紳士だから俺は母さんに普段は絶対に出さない優しい声で、泣くなよ、と言ってみるが母さんは何の反応もしない。

いつも俺と一緒にくだらない事で爆笑したり、それが原因で先生に怒られたりしていた仲間達も今は悲しそうに顔を歪めていたり情けなく泣いていたりする。

おいおい、男がそう簡単に泣くんじゃねえよ。男が泣いていいのは嬉しい時と、誰かが死んだ時だけだ。

そこで俺は改めて思うのだ、

（ああ、こいつら、俺が死んだから泣いてるのか。）

俺、ジローこと佐藤雪慈朗は享年18と、早くも短い生涯を終えてしまったのだと。

昨日は何が何だか分からなかった、こう物思いにふけてる今でさえこの厭にふわふわ軽い「霊体」に違和感を覚えている。こんなに

ハッキリ意識があるのに死んでるなんてな。今は死んじまったもんはしょうがねえとこの現実を受け入れてるけど、…本当は受け入れたくないってねえよ。

「どこの葬式も同じようなもんだなー。辛気くさくてかなわねえ。」

「ツナ、来たんだ。」

「ジローの門出だからな。」

「…ツナはさ、葬式ん時どうしてた？」

「俺もジローと似た様なもんだよ。」

「…ふーん。」

……………昨日は本当に色々あった。それこそ人生の中で一番めぐるましい1日だったんじゃないかなっただろうか。

（めぐるましかったのは人生終わった後か。）

2011年10月19日水曜日

この日は久しぶりに秋らしく、ブレザーとセーターを着こんで家を出た。

「ジロー！鍵忘れてるわよ！」

「あ、あぶねー！」

前日に怖い話を読んでいたら気付けば深夜一時。怖くて風呂に入れなかった。だからあの日は朝早く起きる予定だったのにすっかり寝坊してしまい、でも風呂に入らない訳には行かないから急いで風呂に入った。それでも時間ってやつは無情だから家を出たのは本当に遅刻寸前。反省文なんて冗談じゃない、めんどくせえ。俺は必死に自転車を飛ばした。

急いで急いで、着こんだブレザーが暑くてたまらない。普段俺はわりかし信号は守る方だがこの日はかりは信号を無視した。

「うわビミョー、いつそ潔く諦めるか…？」

だが反省文は嫌だ。信号は赤だったが左右に車の気配はない。俺は信号を無視してわたった。事故が起きたのは信号じゃない。

「あっちー…」

近道をしようと階段を自転車ですくるとき汗が目に入って、

「いつ…、やべー！」

ガシャン！！

俺はこけて自転車と一緒に階段を転がった。その時すでに打ち所が悪かったのか頭がガンガンして意識は朦朧だったが、不幸中の幸いなのかすぐに意識を飛ばした。

人間ってやつは不思議なもので、自分が死ぬ瞬間が分かるんだよね。死んでしまう事が本当に怖かったしすげえ痛かったけど、誰も巻き込まなくてよかった、とか、これで反省文書なくて済むかな、とか思ったのを覚えている。

自分の最後の言葉だっけ言うのに俺は大層な事なんて思いつかず、

「まだ今週のニャンプ読みきってねーのに。」

なんて、至極どうでもいいことを口走った。

今更ながら、もっと気のきいた事を言えばよかったと少し後悔。

次に目を覚ました時には、隣に血を流した俺がいたんだ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7325x/>

しゃれこうべ

2011年11月15日06時40分発行